

第②回

蓼科高原みずなら音楽祭

2012

音楽監督：小林研一郎

2012年

8/26(日)

15:00開演(14:30開場)

茅野市民館

マルチホール

◆ソプラノ
池田 理代子

シベリウス
『フィンランディア』

モーツァルト

ピアノ協奏曲第23番から
第2楽章

ブッチーニ

歌劇『ジャンニ・スキッキ』から
『私の愛しいお父さん』

ヴェルディ

歌劇『アイダ』から『凱旋行進曲』

小林研一郎

『パッサカリア』から『夏祭り』

チャイコフスキー

序曲『1812年』

他 (曲目は変更になる場合があります)

指揮：小林研一郎

管弦楽：コバケンと
その仲間たちオーケストラ

オフィシャルブログ
<http://kobaken-and-friends.at.webry.info/>

ソプラノ：池田理代子

バリトン：村田 孝 高

ヴァイオリン：瀬崎明日香

共演

被災地岩手、福島から高校生が
合唱で共演を予定しています

地元高校生バスバンド、信州玉川太鼓の
共演を予定しています

入場料金(全席指定)

S席3,000円/A席1,000円

未就学児の入場はご遠慮ください。

6月16日(土)より下記窓口にて販売予定

チケット窓口

茅野市民館、NPO法人サポートC
シマダ楽器店、オグチ楽器、笠原書店本店
平安堂諏訪店、今井書店富士見店

お問い合わせ：茅野市民館

電話 0266 (82) 8222

<http://www.chinoshiminkan.jp>

コバケンのバリアフリー音楽祭

“障がい者との共生、音楽のバリアフリーを目指して!”

コバケンとその仲間たちオーケストラ in 蓼科

この公演には知的発達障がいのある方々をご招待しております。みなさまの、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

蓼科高原みずなら音楽祭期間

2012.8/24~8/26

主催：蓼科高原みずなら音楽祭実行委員会

後援：長野県、茅野市、茅野市教育委員会、岡谷市教育委員会、諏訪市教育委員会、下諏訪町教育委員会、富士見町教育委員会、原村教育委員会、茅野市社会福祉協議会、(財)八十二文化財団、長野朝日放送(株)、信濃毎日新聞社、長野日報社、信州・市民新聞グループ(7紙)、エルシービー(株)、NHK厚生文化事業団

協賛：トヨタ自動車株式会社

協力：トヨタ輸送(株)、ヤマハ(株)、ヤマハ音楽振興会、茅野市民館 指定管理者(株)地域文化創造、東京商工会議所 蓼科フォーラム

第②回

蓼科高原みずなら音楽祭

2012

音楽監督：小林研一郎

ブタペストでの思いが、やっと実現した冬———小林研一郎

ブタペストの冬。その日もまた、ドナウからの風は氷のように頬を刺した。そんな夜、コンサートを終え楽屋口を出た僕を、ご両親に伴われて、少女が待っていた。

体が不自由であり、また、知的障がいも持っていた。しかし、演奏を聴いた喜びや感動を必死にほくに伝えようともがいている様子が、いとおしかった。この子達にもっと自由に演奏を聴いて欲しかった。だが、しかし、知的障がい者が健常者と一緒にコンサートを聴く環境を作ることは厳しい。

音が空気に溶けていく様や静けさのみが支配する世界では、ほんの少しの雑音も許されない……。そういう矛盾を思いの底に沈めて、長い間、解決がないまま、悶々と過ごしてきた。そんな中で、スペシャル・オリンピックス世界大会・長野との出会いがあった。世界中から集まるアスリート達に、今までの努力を讃え、そして、これからの励ましを込めて、競技会場の白馬でボランティア・コンサートをしてもらえないか……。妻からの申し出があった。

そこでは、嬉しかったら立ち上がったり、感動したら声を出してもいい。そんなコンサートにしたい。だが、それは、途方もない企画だった。指揮者だけではコンサートはできない。果たしてボランティアでオーケストラのメンバーは集まってくれるのだろうか。

しかし、たくさんの人々の小さな思いは、やがて、大きな力になっていた。3月3日深夜、114名のボランティアの演奏家たちを乗せたバスはひたすら、白馬に向けて走っていた。

“コバケンとその仲間たちオーケストラ”バスのフロントガラスにはそう書かれてあった。そしてコンサートではアスリートたちに、僕たちの思いを伝えることができた。彼らの眼はより輝きを放ち、立ち上がっての拍手は続いていた。しかし、それにも増して、我々演奏家たちは口々にこう言っていた。聴いてくれてありがとう。演奏させてくれてありがとう。この時を与えてくれてありがとう。出会いをありがとう……。励ましをもらったのは、むしろ、僕たちだった。

日本の社会が障がい者をごく普通に受け入れてくれる時がやがて来るまでは、このコンサートは続けなくてはならない。障がい者も健常者も垣根なく共生できる社会に向かって歩き始めよう。そう思ったときでもあった。

小林 研一郎 Ken-ichiro Kobayashi [指揮]

東京藝術大学作曲科及び指揮科の両科を卒業。1974年第1回ブタペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。世界中の数多くの音楽祭に出演のほか、国内外のオーケストラを多数指揮。ハンガリー国立響音楽総監督・常任指揮者、チェコ・フィル常任客演指揮者、日本フィル音楽監督などを歴任。ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中文勲章(民間人としては最高の勲章)を授与される。現在、ハンガリー国立フィル、名古屋フィル桂冠指揮者、ハンガリーリスト音楽院名誉教授、東京藝術大学名誉教授、東京音楽大学名誉教授。2011年文化庁長官賞受賞。オクタヴィア・レコードから数多くのCD、DVDが発売されている。著書にはエッセイ集『指揮者のひとりごと』がある。

現在最も活躍し、注目されている世界指揮者の一人である。

2005年3月、社会貢献を目的とした『コバケンとその仲間たちオーケストラ』を設立。

池田理代子 Riyoko Ikeda [ソプラノ]

東京教育大学(現・筑波大)哲学科在学中より劇画を描き始め、『ベルサイユのばら』は社会現象ともいえる大ヒットとなり、今もなお国際的な人気を博す。『オルフェウスの窓』で日本漫画家協会優秀賞受賞。1999年東京音楽大学声楽科を卒業、現在はソプラノ歌手としてオペラ『愛の妙薬』(アディーナ)、『フィガロの結婚』(伯爵夫人)などに出演の他、ミュージカル『赤毛のアン』、コンサート、ディナーショー、『第九』『レクイエム』のソリストとしても活躍する傍ら、朝日新聞に四コマ漫画『ベルばら kids』を連載中。童謡や唱歌を収めたCD『思い出の絵ほんばり〜歌は美しかった』、マリー・アントワネット自身の作詞作曲による歌曲のCD『ヴェルサイユの調べ』をリリース。故・東敦子、宮副芳通、本宮寛子の各氏に師事。2008年フランス政府よりレジオンドヌール勲章叙勲。

管弦楽:コバケンとその仲間たちオーケストラ Kobaken & his Friends' Orchestra

2005年3月のスペシャル・オリンピックス(知的発達障がいのある人たちに、日常的なスポーツ・トレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織=以後SO)の趣旨に小林研一郎氏が賛同し、冬季世界大会の長野に於いてSOの公式文化事業の一つとしてコンサートを企画し、これを契機に「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立。障がいを持つ人も健常者も同じ空間を共有し、同じ喜びを享受して共に生きて行ける社会を実現するための一助になること目指して、今までにSOの長野県を始め長崎県、熊本県、福島県、山形県、千葉県等多くの障がいを持つ方々と健常者の方々との交流を深め、演奏者は遠く海外からもやって来てコバケン・ワールドに浸り、その喜びを聴衆に伝え、一緒に社会参加を呼びかけている。このオーケストラは、プロ・アマ年齢を問わず、活動趣旨に賛同する不特定多数の演奏家たちとそれを支えるスタッフから構成され、知的障がいを持つ方々を招いて生の演奏を聴いていただくためにボランティアでコンサートを行っている。

スペシャル・オリンピックス(SO)とは…

知的障がいのある人たちに、日常的なスポーツ・トレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織で、日本でのSOの活動は多くの市民ボランティアによって支えられています。創設者は、故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー氏。日本では名誉会長に元総理夫人の細川佳代子氏。会長に三井罐子氏が、現理事長にはオリンピック女子マラソンメダリストの有森裕子氏が就任しています。

